

国際助産師連盟 専門職としての助産師教育のための モデルカリキュラムの概要

ICM リソースパッケージその3 助産師教育に利用可能な主な情報資源

序論

21 世紀、インターネットを通じて豊富な情報がグローバルコミュニティーにもたらされた。こうした情報へのアクセスは、コンピューターあるいは携帯電話を通じて拡大し続けている。もちろん、世界には現時点でまだインターネットアクセスが制限されている、または全くない地域があることを ICM は認識している。このリソースパッケージが主にネットアクセスに依存する目的は、世界各所の教育課程がインターネットへのアクセスを獲得できるよう協力するためである。なお、このパッケージは各 ICM 基本文書の写しを各 1 部収載している。この重要な ICM 学習情報資源の写しがさらに必要であれば、ICM 教育常任委員会 (Education Standing Committee : ESC) がまとめ、希望により ICM 本部を通じてわずかな料金で配布できる。一部の推奨される書籍や論文もウェブインターフェイスを持っている場合があり、「doi」番号で示している。

ICM 教育常任委員会 (ESC) は、助産師教育に関する最新情報や、新規の『ICM 助産師教育の世界基準 (2010)』、改訂された『ICM 基本的助産業務に必須な能力 (2010)』に関して、主たる情報源になっている。グラスゴーでの 3 年毎大会を受け、2008 年、ESC は助産師教育のメーリングリストサービスを開設した (<http://www.jiscmail.ac.uk/lists/midwifery-reprohealtheducation.html>)。このサービスの目的は、助産、リプロダクティブ・ヘルス、女性の健康教育について議論する国際フォーラムを創設することである。このサービスにより、情報共有 (例：ワークショップ、セミナー、学会、新しい教育問題) を促進し、助産とリプロダクティブ・ヘルス教育に携わるすべての人の協力とネットワークを推進するネット上の「場」が提供されている。上記のサイトで必要な情報を記入するだけで、リストに加入できる。

ESC は、現在助産教育に関する情報資源を収集しており、ICM サイト (www.internationalmidwives.org) に近く掲載予定である。

リソースが少ない国々の助産師教育者には、特定の助産テキストや教材を購入したいと考える者もあるだろう。Teaching Aids at Low Cost (TALC) (www.talcuk.org) では、英語、スペイン語、フランス語の様々な助産テキストや、解剖学、疫学、熱帯病その他の助産実践・教育に役立つ科学的根拠に関する書籍を販売している。

ウェブ上の情報資源

国際助産師連盟 (ICM)

www.internationalmidwives.org で「基本文書 (core document)」を検索。

ICM 助産師の定義 (2011)

ICM 助産ケアの理念とモデル (2008)

ICM 助産師の国際倫理綱領 (2008)

ICM 基本的助産業務に必要な能力 (2010)

ICM 助産師教育の世界基準 (2010) 付属ガイドライン

ICM 助産規制の世界基準 (2011)

ICM 用語集 (2011年6月)

実践・教育・規制の助産業務範囲に関わる所信表明

世界保健機関 (WHO)

WHO ウェブサイト (www.who.int) を参照。「保健に関するトピック (Health Topics)」を検索して、「Midwifery」などのトピックをクリックすると WHO による取り組みがわかる。「Programmes and projects」の中の「Maternal, newborn, child and adolescent health」、さらに「Document centre」から「Midwifery」に進むと、『WHO 助産強化ツールキット (Strengthening Midwifery Toolkit) (2011)』と、『WHO/ICM 助産モジュール』や『専門職としての看護師および助産師の初期教育のための世界基準 (Global Standard for the Initial Education for Professional Nurses and Midwives) (2009)』など、これまでの様々な文書が収載されている。

「Health topics」に戻って、「Pregnancy」をクリックすると、画面の左側に一覧された「Document centre」の中に「妊娠をより安全に (Making Pregnancy Safer)」の文書が見つかる。「Programs and projects」をクリックすると、「リプロダクティブ・ヘルス図書館 (RHL)」があり、出産を含むリプロダクティブ各期のケアに関する様々なオンライン情報資源が入手できる。WHO が定義するリプロダクティブ・ヘルス能力 (reproductive health competency) も掲載されている。

WHO は、「基本的・総合的な産科救急ケア (Basic and Comprehensive Emergency Obstetric Care)」のガイドラインも発表しており、さらに最近「新生児ケア (Neonatal Care)」(BEmONC) を追加した。産後出血や子癇前症・子癇の予防・管理に関するガイドラインも、オンラインで入手できる。

リソースが乏しい国の助産教育者でも国内に WHO 事務所があれば、訪ねて情報を得ることができる。WHO の国内事務所は、テキストやプラスチックまたは布の模型など教材を購入するための教育プログラ

ムへの助成金も提供している場合がある。

妊産婦及び乳幼児の健康を守るためのパートナーシップ (PMNCH)

WHO は、妊産婦及び乳幼児の健康を守るためのパートナーシップ (Partnership for Maternal, Newborn and Child Health : PMNCH) を主催している。これは、特にリソースの乏しい国の妊産婦及び乳幼児の健康の改善を目的とする世界規模のアドボカシーグループである。そのウェブサイト (www.who.int/pmnch/en) には、パートナー活動に関する様々な情報が掲載されている。PMNCH 知識ポータルには、科学的根拠を手短にわかりやすくまとめた「知識サマリー (Knowledge Summaries)」があり、MNC 方針や実践の情報を得られる。特に助産師教育に注目しているのは、「知識サマリー #14 : 命を救う : 助産師への投資」 (<http://portal.pmnch.org/knowledge-summaries/ks14>) である。

国連児童基金 (UNICEF)

国連児童基金 (United Nations Children's Fund : UNICEF) は、誕生から思春期までの子どもの健康と well-being に取り組む国際組織である。そのサイトには、「ユニセフについて : ユニセフは、全ての子どもたちの権利が守られる世界を実現するために活動する組織です。ユニセフは、その国際的権威を背景に、世界各国・地域の政治的に重要な立場にある人々に子どもを取り巻く問題の改善のための政策を促し、草の根レベルで活動する様々な方々と協同し、子どもたちの権利を守るための新たなアイデアを具体化しています。」と示されている (www.unicef.org)。

ユニセフは、健康な新生児の誕生を促す健康な妊娠の重要性を認識し、質の高い助産ケアに関心を寄せている。

リソースの少ない国のユニセフ事務局は、特に母乳哺育や予防接種プログラムなどに関して国レベルでのリソースを提供している。ウェブサイトを見る場合は、「Focus Areas」→「Mothers & Babies」または、「Nutrition」などの領域をクリックする。

国連人口基金 (UNFPA)

国連人口基金 (United Nations Fund for Population Advancement : UNFPA) は、リプロダクティブ・ヘルス、女性の権利および妊産婦と新生児の死亡率・罹患率の軽減を目指す国際組織である。国際助産師連盟など多くの機関と協働している。ウェブサイトには多数の関連トピックについての情報が掲載されている。助産に関する具体的な情報を見つけるには、ホームページ (www.unfpa.org) から、画面左側の「Reproductive Health」をクリックし、「Safe Motherhood」「Midwives」と進む。このサイトには、世界の助産師の必要性と役割を探究する報告書、最新の情報資源資料、ビデオが集められている。

リソースの少ない国の助産教育者は、UNFPA の国内事務所を訪ねれば、ウェブサイトに掲載された情報

資源の多くを入手できる。

米国国際開発庁 (USAID)

米国国際開発庁 (USAID) は、様々な健康問題を扱うアメリカの海外支援機関である。このウェブサイト (www.usaid.gov) で「Our Work」をクリックし、「Health」「Maternal Child」「Maternal Health」と進むと、この機関が主催している情報資源や活動の一部を見ることができる。最も新しいプロジェクトの一つは、新生児蘇生法を教えるための「Helping Babies Breathe (HBB)」である。

USAID は、2007 年に NGO IntraHealth International と協力して、以下のマニュアルを発表した。

IntraHealth International, USAID. (2007). Learning for Performance: A guide and toolkit for health worker training and education programs (実行のための学習：医療従事者の研修及び教育プログラムのための指針およびツールキット) . Washington, DC: The Capacity Project. ウェブサイト (www.capacityproject.org) では、「Publications and Resources」の中の「Tools and Resources for HRH Practitioners」をクリック。英語・フランス語・スペイン語でマニュアルが掲載されている。

USAID 母子健康総合プログラム (MCHIP)

USAID を通じて資金提供を受けている母子健康総合プログラム (Maternal and Child Health Integrated Program : MCHIP) は、そのウェブサイト (www.mchip.net) で妊娠出産期のケアおよび家族計画、医療従事者教育に関する多くの電子資料を提供している。「Tool & Resources」→「Topics/Subtypes」→「Browse Related Links」をクリックすると母子の健康に重点を置いた様々なパートナーシップについて知ることができる。ここに掲載されたどの関連リンクをクリックしても、より多くの情報資源が掲載されたサイトに直接アクセスできる。

K4Health (健康のための知識)

ホームページ上でこのサイト (www.k4health.org) に掲載された多様な情報資源を確認後、「etoolkits」または「elearning」をクリックして、妊娠出産とリプロダクティブ・ヘルスに関する様々な学習・指導用情報資源を見るとよい。たとえば、産後出血のツールキットには、分娩第 3 期の積極的な管理 (AMTSL) を実演するビデオがある。

このサイトの www.k4health.org/toolkits/pse で、「Pre-service Education Program Roadmap」をクリックすると、妊産婦・新生児にケア提供をしなければならない医療従事者を対象とした就業前教育課程の計画・実施・モニタリング・評価に関する 7 つのステップが出てくる。このサイトには、豊富な情報資源の

電子図書館もある。

ジョンズ・ホプキンス大学の関連機関 Jhpiego

Jhpiego は、医療従事者の養成を含む、健康に重点を置いた研修教材作成の長い歴史を持っている。ウェブサイトを (www.jhpiego.org) を熟読し、「Resources」の中にある「Training Materials」のリンクに進む。

オンラインでの助産カリキュラム

入学候補者や規制機関に情報提供する目的で、助産カリキュラムの内容（科目内容の説明を含む）を、インターネットを利用して示している就業前助産師教育課程は世界に多数ある。以下に例をあげる。

ワシントン州シアトルのバステリア大学助産学部は、3年のダイレクトエントリー助産課程を提供している。

<http://www.seattlemidwifery.org/midwifery-education/curriculum-overview>

ペンシルベニア大学看護学部の看護師対象助産修士課程には、以下からアクセスできる。

http://www.nursing.upenn.edu/academic_programs/grad/masters/program_detail.asp?prid=10

推薦図書および論文

成人学習に関する情報資源

1. Brookfield SD & Holst JD. Radicalizing learning: Adult education for a just world. San Francisco: Jossey-Bass, 2011. Chapter 2: Understanding adult learning, pp. 2–42. この章は、現代社会で成人が学習する方法の概要として優れている。変形学習 (transformative learning)、自己主導学習 (self-directed learning)、批判的熟考 (critical reflection) が含まれる。
2. Knowles MS, Holton EF, Swanson RA. The adult learner 6th edition. Boston: Elsevier, 2005.
3. Paul R. Critical thinking, moral integrity, and citizenship: Teaching for the intellectual virtues, 1993. <http://www.criticalthinking.org/resources/articles/ct-moral-integrity.shtml>
4. Paul R, Elder L. The miniature guide to critical thinking concepts and tools. The Foundation for Critical Thinking www.criticalthinking.org
5. Pritchard A. Ways of learning: Learning theories and learning styles in the classroom, 2nd Ed. London: Routledge, 2009.
6. Scheffer BK, Rubenfeld MG, A consensus statement on critical thinking in nursing. Journal of Nursing Education 39L 2000, pp. 352-359.
7. Thompson JE, Kershbaumer RM, Krisman-Scott MA. Educating advanced practice nurses and

midwives. New York: Springer Publishing Company, 2001. Chapter 4: Educational philosophy and adult learning theories, pp. 47-56.

8. Murphy C, Viadro C. Applying the Learning for Performance approach. Legacy Series 5: The Capacity Project, September 2009. PDF ファイルも www.capacityproject.org の「Publications and Resources」からダウンロードできる。完全なマニュアルもこのサイトからダウンロードできる。

助産師教育に関する情報資源（多くのテキストは TALC (www.talcuk.org) で入手可)

1. Fraser DM & Cooper MA. Myles textbook for midwives 15th edition. London: Churchill Livingstone, 2009.
2. Fraser DM, Cooper MA, Nolte AGW. Myles textbook for midwives African edition 2nd Edition. London: Elsevier, 2010.
3. Klein S, Miller S, Thomson F. A book for midwives. UK: Macmillan, 2007.
4. Johnson R & Taylor W. Skills for midwifery practice 3rd Edition. London: Churchill Livingstone, 2010.
5. Klein S, Miller S, Thomson F. Un libro para parteras: Atención del embarazo, el parto y la salud de la mujer. Hesperian Foundation, 2007.
6. Varney H, Kriebs JM, Gegor CL. Varney's midwifery 4th edition. Boston: Jones and Bartlett Publishers, 2004.
7. Varney H, Kriebs JM, Gegor CL. Parteria profesional de Varney 4th edición. Washington, DC: Organizacion Panamericana de la Salud, 2006.
8. Tiran D. Bailliere's midwives' dictionary 11th edition. Blilliere Tindall, 2008.
9. Hanratty KP. Obstetrics illustrated 7th edition. London: Churchill Livingstone, 2010.

教員養成に関する情報資源

1. 概要はパケット 4 を参照。
2. Benner P. From novice to expert: Excellence and power in clinical nursing practice. Menlo Park: Addison-Wesley Publishing Company, 1984.
3. Billings DM, Halstead JA. Teaching in nursing: A guide for faculty 3rd Ed. St. Louis, MO: Saunders, 2009.
4. Bloom B. Bloom's Revised Taxonomy. Retrieved from web on April 2, 2012 from http://projects.coe.uga.edu/epltt/index.php?title=Bloom%27s_Taxonomy
5. Brookfield SD. Becoming a critically reflective teacher. San Francisco: Jossey-Bass, 1995. Chapters 1-3: What it means to be a critically reflective teacher, Becoming critically reflective: A process of learning and change, and Learning to know ourselves: The value of autobiography, pp.

1-70.

6. Innovative Learning. Learning theories. Retrieved 3-30-2010 from: http://www.innovativelearning.com/teaching/learning_theories.html
7. Parker PJ. The courage to teach. San Francisco: Jossey-Bass, 1998. Chapter 1: The heart of a teacher: identity and integrity in teaching, pp. 9-33.
8. 指導計画のために上記ウェブサイトを参照する。特にK4Health, MCHIP, WHO Midwifery Toolkit (2011)。指導学習研究所 (Teaching and Learning Institute (<http://www2.hud.ac.uk/tali/about.php>)) など、医療従事者の教育に重点を置いたサイトもある。

内容・エビデンスの要約を使った指導に役立つ参考文献の例

1. Andrews M, Brewer M, Buchan T, Denne A, Hammond J, Hardy G, Jacobs L, McKenzie L, West S. Implementation and sustainability of the nursing and midwifery standards for mentoring in the UK. *Nurse Education in Practice*: 10, 251-255, 2010.

この論文は、メンター・指導者の役割の重要性に焦点を当て、メンター・ファシリテーターが専門職種間の役割を果たす中で直面する課題を論じている。どの領域でメンター・指導者が講義能力や評価能力の向上の支援を受けられるかを明示している。指導者は、専門職種間で認知がほとんどされていない。医療専門職内における学生のメンタリングの基準策定が提案されている。

2. Bluff R, Holloway I. The efficacy of midwifery role models. *Midwifery* 24: 301-309, 2005.

この定性的で堅固な理論アプローチは、学生が将来適合すべき役割に関して、助産のロール（役割）モデルが与える影響を検証している。変化する文化に適合するために、学生はこれに合わせて役割を適合させることを学ぶ。学生と一緒に働く助産師を見習う。メンターの役割を負う助産師は、学生と働く際に、自分の「役割」に注意を払う必要がある。

3. Furber C, Hickie J, Lee K, McLaughlin A, Boggis C, Sutton A, Cooke S, Wakefield A. Interprofessional education in a midwifery curriculum: The Learning through the Exploration of the Professional Task Project (LEAPT). *Midwifery*: 20, 358-366. 2004.

助産学生が、医学生および看護学生とともに問題解決型の学習シナリオに参加した。その目的は、学生の協働の姿勢を育成すること、学習体験を促進・拡充することであった。学生はこのやり方を、将来の役割を発展させる「安全な (safe)」方法と感じた。学生の協働に対する態度を向上させ、学習と熟考の両方を促した。

4. Holland K, Lauder W. A review of evidence for the practice learning environment: Enhancing the context for nursing and midwifery care in Scotland. *Nurse Education in Practice* 12: 60-64, 2012.

ケアの提供は、社会的・政治的变化の背景の中で設定される。助産研修のニーズも、実習学習環境やより進んだ学習における戦略的パートナーという点で、これを考慮しなければならない。世界保健助産師：ヘルスケア提供に対する統合的アプローチ。実習教育は、現在および将来の労働力を開発するための中心となる。

「学びの共同体 (community of learning)」という語は、新米助産師、能力向上を目指す現役助産師、助産学教員などいずれにも用いられる。

5. Walsh D. In Downe S, Byrom S, Simpson L. (ed). *Essential midwifery practice: Leadership, expertise and collaborative working*. Wiley-Blackwell. 2011.

Denis Walsh は、助産ケアの問題に対する助産師の態度や信念が、助産の実践に影響することを指摘している。助産師が他者（学生、女性など）と接する際にこれを意識しておくことが重要である。

教材の情報資源

1. 国内の助産協会または看護協会のウェブサイトや地域事務所に教材がある場合がある。協会の会員は、指導用模型、視聴覚教材、テキストなどがどこで購入できるかを教えてもらえる。
2. オーストラリアの [Birth International \(www.birthinternational.com\)](http://www.birthinternational.com) や、[Childbirth Graphics \(www.childbirthgraphics.com\)](http://www.childbirthgraphics.com) は、助産学教員が授業で使ったり、助産学生が出産教育クラスで妊産婦に教えたりする際に役立つ教材を扱っている。
3. UNFPA ジンバブエは、国内の 18 の助産学校に指導教材や模型を贈呈した。他の国際機関やリソースが豊富にある国の助産協会も、多くは 5 月 5 日の国際助産師の日に合わせて、こうした寄付を行っている。
4. Laerdal 社は、新生児ケアと蘇生のための安価な機器を提供している。
5. 模型、フリップチャート、ポスターなど多くの教材は、教員が個人でも作成できる。低価格の教材を作るには創造力が求められる。能力開発のための実習ラボで有用な教材の例を以下に挙げる。
 - ✓ 手編みの子宮模型に子宮頸部を示す 2 インチの口ゴムをつける。展退と拡張を示すために、ゴムボールやゴム人形の中に入れられる。
 - ✓ 女性の骨盤模型とゴムまたは布製の人形を使って、解剖学的ランドマークと、頭位や骨盤位の分娩のメカニズムを説明する。
 - ✓ 会陰切開または裂創の縫合を練習するための 4 インチ角の気泡ゴム（鶏胸肉も利用できる）
 - ✓ 施設内では使わなくなった（廃棄予定の）持針器、摂子、臍帯クランプ、ハサミ（直鋏、彎曲鋏）など。

- ✓ 無菌が保たれなくなり廃棄された手術室の縫合パケット
- ✓ IUD の挿入と除去の練習のための模型 (IUD メーカーが提供していることが多い)
- ✓ 胎盤と臍帯のついた布製の新生児人形 (新生児の臍に臍帯をスナップで止められる)
- ✓ 解剖学の説明と乳児に正しく乳首をくわえさせる実習のための授乳乳房模型 (布製)
- ✓ 検鏡挿入の練習のための骨盤模型
- ✓ 胎児の心拍を聞くためのトラウベ

理論を学ぶ際に有用な教材の例を以下に挙げる (描くこともできる)。

- ✓ 月経周期を解説したポスター
- ✓ 模型による女性の胴体部分内での胎児の成長と発達を妊娠週数ごとに説明し、妊婦の身体の解剖学的変化が目で見分けるようにしたポスター
- ✓ 母乳哺育のフリップチャート (授乳方法)
- ✓ 乳房の自己チェックを説明したポスター
- ✓ 出産予定日計算用ホイール (妊産婦用製品を製造している企業が無料で配布していることが多い)
- ✓ 生殖に関する女性・男性の解剖学を説明したポスター

(公社) 日本看護協会 (公社) 日本助産師会 (一社) 日本助産学会誌

All rights, including translation into other languages, reserved. No part of this publication may be reproduced in print, by photostatic means or in any other manner, or stored in retrieval system, or transmitted in any form without written permission of the International Confederation of Midwives. Short excerpts (under 300 words) may be reproduced without authorisation, on condition that the source is indicated and that the ICM be informed.

他の言語への翻訳権も含めて、この出版物は著作権を有しています。国際助産師連盟 (ICM) から文書による許諾を得ることなく、本書の一部または全部を何らかの方法で複製することや検索システムに登録することなど、一切の伝播を禁じます。ただし、短い引用 (300 語未満) に関して、許可は不要ですが、その場合は出典を明記し、ICM へご連絡ください。

Copyright © (2012) by ICM- International Confederation of Midwives,
Laan van Meerdervoort 70, 2517 AN The Hague, The Netherlands